第１章　基本方針

１．設立趣旨

作家・吉村昭氏は、昭和２年(1927)、東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本(現：荒川区東日暮里六丁目）に生まれました。昭和９年(1934)に東京市立第四日暮里尋常小学校（現：ひぐらし小学校）に入学し、昭和15年（1940）に私立東京開成中学校に入学した後、昭和20年(1945)、戦時特例により４年で繰り上げ卒業となっています。その後進学した学習院大学時代から文学を志し、昭和 41年（1966）には「星への旅」で第２回太宰治賞を受賞したほか、同年ベストセラーとなった『戦艦武蔵』は、記録文学に新しい分野をもたらしたと高い評価を受けています。

緻密な取材、徹底した調査に基づく鋭敏な文章によって生み出された吉村氏の文学作品は、数々の文学賞に輝き、昭和62年（1987）には、日本芸術院賞を受賞しました。また、日本文藝家協会理事、日本近代文学館理事、日本芸術院第二部長の大役を担うなど、我が国の文学界に多大な功績を残されました。

荒川区は、吉村氏の区に対する多大なる貢献を顕彰するため、平成４年(1992)に荒川区区民栄誉賞をお贈りするとともに、生家の近くにある日暮里図書館に展示コーナーを設け、現在までその業績を紹介してきました。さらに、本格的に作家・吉村昭氏の業績を後世に伝えることが同時代に生きる私たちの責務であると考え、吉村氏に対して文学館設置に関する申し入れを行った結果、吉村氏より、「荒川区に負担をかけない」ことを条件として、文学館設置に対する同意と資料の寄託のお申し出をいただくことができました。そして、平成 18 年(2006) ７月に吉村氏が御逝去された後、夫人で作家の津村節子氏の御協力により、蔵書をはじめ著作原稿や愛用品などを御寄託いただいております。

このような経過に基づき、荒川区では、平成18年度に、「文学館の在り方に関する懇談会」を設置し、学識経験者をはじめ多くの地域関係者の方々の参画により、文学館の在り方について活発な議論を行ってきました。

本基本構想は、「文学館の在り方に関する懇談会」による報告を踏まえ、吉村氏の業績を伝えるとともに、多くの荒川区民が吉村文学を通してより深く文学に触れることのできる、(仮称）吉村昭記念文学館の設置に向けて、基本構想委員会を設置し、基本理念をはじめ、事業活動や施設整備に関する考え方を取りまとめたものです。

■作家・吉村昭氏　略年表

年		年齢	出来事
1927年	昭和2年	0歳	東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本（現：荒川区東日暮里六丁目）で誕生 兄2人は夭折、姉1人、兄5人がおり、翌年には弟が誕生
1933年	昭和8年	6歳	神愛幼稚園入園
1934年	昭和9年	7歳	東京市立第四日暮里尋常小学校(現：ひぐらし小学校)入学
1940年	昭和15年	13歳	私立東京開成中学校（現：開成中学校）入学
1943年	昭和18年	16歳	日暮里に父が新築した隠居所に弟と移る。
1947年	昭和22年	20歳	学習院高等科文科甲類入学
1948年	昭和23年	21歳	1月に喀血し、9月に東京大学医学部付属病院分院にて、胸郭整形手術を受け、左胸部の肋骨5本を失う。
1949年	昭和24年	22歳	栃木県奥那須で療養
1950年	昭和25年	23歳	学習院大学文政学部文学科入学。文芸部に所属
1952年	昭和27年	25歳	文芸部委員長になり、会誌『赤繪』を発行し、短篇を発表
1953年	昭和28年	26歳	大学を中退。兄の経営する紡績会社に入社、半年ほどで退社。 11月、文芸部員だった北原節子（津村節子）氏と結婚、池袋のアパートに住む。 丹羽文雄主宰の同人誌『文學者』、小田仁二郎主宰の同人誌『Z』などに短篇を発表
1958年	昭和33年	31歳	短篇集『青い骨』を自費出版 『週刊新潮』に短篇「密会」を発表して作家デビュー
1966年	昭和41年	39歳	「星への旅」で第2回太宰治賞を受賞 「戦艦武蔵」が『新潮』に一挙掲載され、作家として自立
1973年	昭和48年	46歳	「深海の使者」で第34回文藝春秋読者賞を受賞 第21回菊池寛賞を受賞
1979年	昭和54年	52歳	「ふぉん・しいぼるとの娘」で第13回吉川英治文学賞を受賞
1985年	昭和60年	58歳	「冷い夏、熱い夏」で第26回毎日芸術賞を受賞 「破獄」で第36回讀賣文学賞を受賞 第35回芸術選奨文部大臣賞を受賞
1987年	昭和62年	60歳	日本芸術院賞を受賞
1992年	平成4年	65歳	都民文化栄誉章を受章。荒川区区民栄誉賞を受賞
1994年	平成6年	67歳	「天狗争乱」で第21回大佛次郎賞を受賞
1997年	平成9年	70歳	日本芸術院会員に選ばれる（2004年に第二部長に就任）。
2005年	平成17年	78歳	癌を宣告され、数度の手術を受ける。
2006年	平成18年	79歳	7月31日未明に逝去 10月短篇集『死顔』刊行

２．基本理念

あるがままを忠実に模写していくような静謐な文体を駆使して、様々な時代、様々な場所、様々な状況において懸命に生きる人々の姿を、実直な表現方法で克明に描き続けた作家・吉村昭氏。

記録文学や歴史文学をはじめとする多様な作品を残した吉村氏の文学世界では、「限られた時間を完全燃焼して生きた人間（『私の創作ノートから－シーボルトとその周辺』）」の姿が、その体温すら感じられそうなほどの臨場感を伴って描き出されています。

また、出身地である日暮里への思いや、家族、友人への思いが綴られた多くの随筆は、さりげない文章の中にも深い滋味を湛えた表現が溢れ、吉村氏の実直な人柄が垣間見えます。

本文学館は、このような吉村作品が、広く、そして末永く読み継がれるよう、作家・吉村昭氏の功績を顕彰するとともに、その精神を次代へと継承し、荒川区における文化のさらなる振興・発展へと結実させることを目的とします。

そして、人々が広く文学への接点を持てるよう、幅広い文学をテーマとして取り上げるのみならず、地域ゆかりの芸術文化をはじめ、幅広い芸術分野をも視野に入れることにより、来館者が「見ること」「読むこと」「考えること」を通して、心豊かに、また、知的好奇心を満足させることができる文学館を目指します。

こうした思いを込め、本文学館の基本理念を以下のように設定します。

ふるさと荒川区を愛した

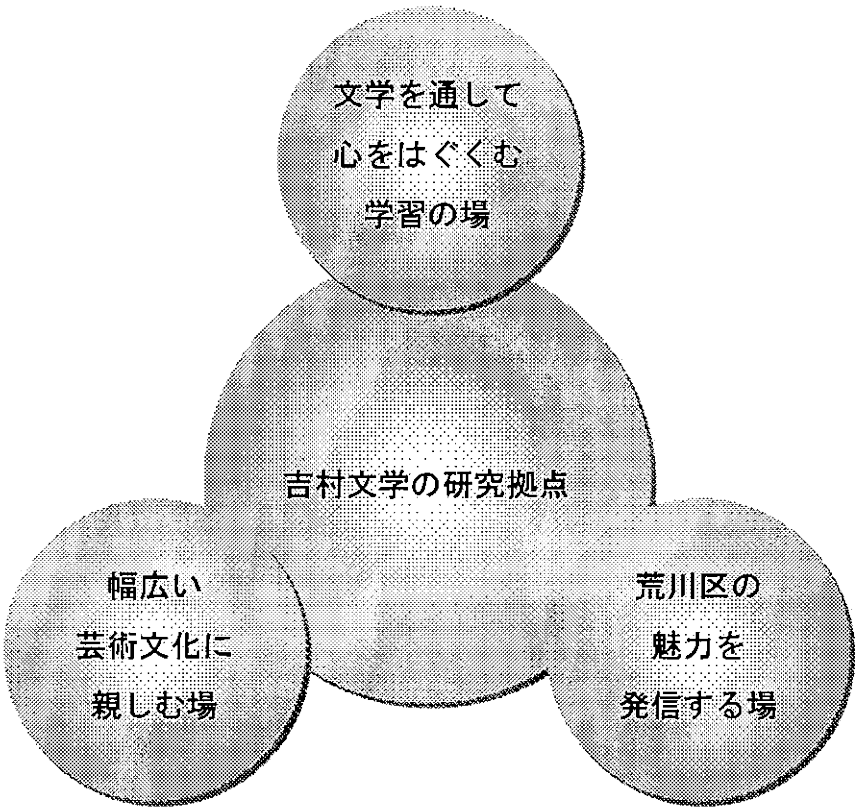
作家・吉村昭氏の作品と足跡を基礎として、

幅広い文化活動の展開を図り、

荒川区の文化振興に寄与する文学館

3．機能

本文学館では、基本理念の実現に向け、第一に、吉村文学を中心とする文学研究を行い、多くの区民をはじめとする人々に吉村文学とふれあう機会を提供します。そして、さらに、文学をきっかけとした体験や交流を通して、人々が心を豊かにしたり、人間性を深めたりできる場の構築を目指します。



（1）吉村文学の研究の拠点

吉村文学の魅力と吉村氏の業績を明らかにし、後世に伝えるため、吉村文学に関連する資料を幅広く収集し、保管するとともに、多角的な視点から継続的な研究を推進し、その成果を公開します。

長期的な展望に基づいた継続的な収集活動を推進し、吉村文学に関連する幅広い資料を所蔵する国内随一の文学館を目指します。そして、これらの資料を生かし、学芸員を中心とする調査研究を推進するとともに、館外の研究者や関係者、研究機関などと連携し、更なる研究の活性化を図ります。

（２）文学を通して心をはぐくむ学習の場

吉村文学を入口として幅広い文学世界へ導き、利用者が文学を楽しみ、教養を深め、心を豊かにすることを支援します。

吉村文学に関する研究成果を基盤に、現代を見つめる視点として吉村文学を据え、それが語りかけるメッセージを発信していくとともに、記録小説・歴史小説を通して、日本の近世から現代の歴史や社会を学ぶ教材として生かすことを目指し、展示や教育普及活動を展開します。

さらに、様々な年齢層を対象とした教育普及活動を展開し、区民をはじめとする人々による主体的な文学活動を支援します。

（３）幅広い芸術文化に親しむ場

地域の芸術文化拠点として、荒川区の芸術作品や伝統芸能の紹介など、幅広い芸術文化活動を展開することにより、区民をはじめとする多くの人々に多彩な芸術文化体験を提供し、荒川区の文化の醸成に寄与する機能を果たします。

さらに、こうしたきっかけで来館した利用者に対して、文学への興味を高めてもらえるよう、展示や教育普及活動への参加を働き掛けていきます。

（４）荒川区の魅力を発信する場

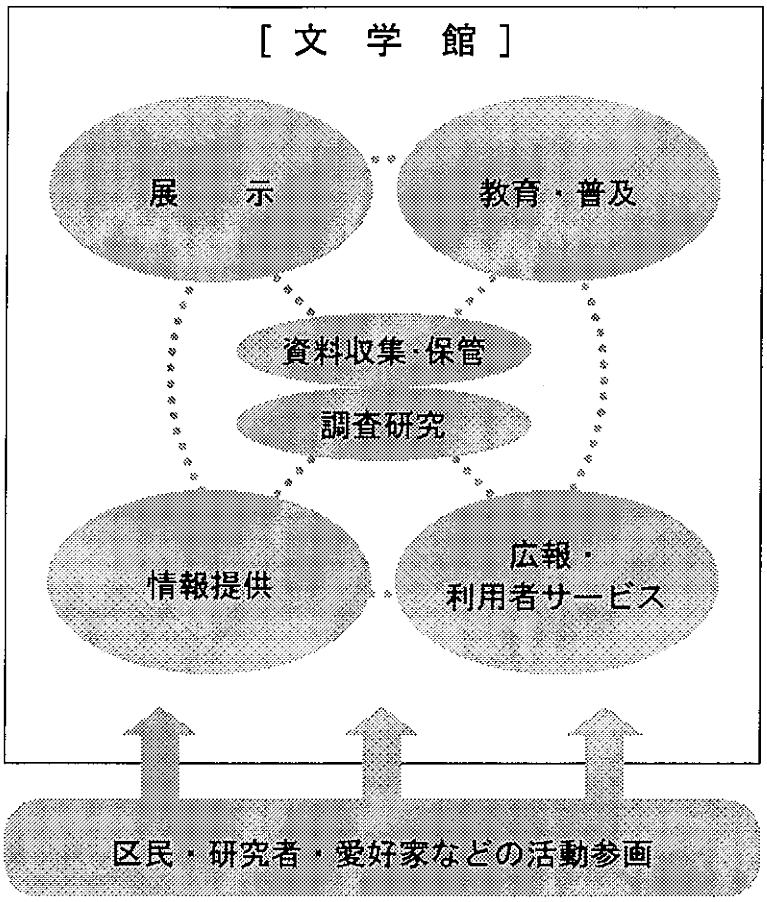
荒川区には、吉村氏にかかわるゆかりの地や江戸時代からの歴史遺産など、数多くの見どころが点在しています。区民をはじめとする人々が気軽に訪れ、身近に楽しめるよう、こうした見どころの魅力を発信していきます。

来館者に対しては、荒川区内や周辺地域の魅力を紹介するとともに、必要な地域情報を提供し、周辺地域の回遊を促進します。

4．展開する事業活動

基本理念の実現に向け、以下の事業活動を展開します。

文学館が区民をはじめとする人々に親しまれ、その存在価値を高めていくためには、それぞれの活動を有機的に連携させながら展開することが重要です。



（1）資料収集・保管

吉村文学に関連する幅広い資料を所蔵する国内随一の文学館を目指し、吉村家から寄託された資料に加え、吉村氏とその作品に関連する資料を対象に、収集を行います。また、収集した資料に合わせた保存と展示の環境を備え、適切に保存・管理します。

（2）調査研究

吉村文学に関連する情報を集積し、吉村文学の魅力や精神を探求するなど、文学館の基礎となる調査研究活動を展開します。活動の展開に当たっては、学芸員を中心とする調査研究活動に加え、新たに設置する研究支援組織などの協力を得て、より高度で実践的な活動を展開します。調査研究の成果は、展示や研究報告書などを通じて広く一般に公開します。

（３）展示

資料収集や調査研究を基盤とし、基本理念に沿った充実した展示活動を展開します。吉村氏や吉村文学をテーマにした展示を行うとともに、日暮里を中心に点在する吉村氏ゆかりの地や作品に関連するスポットなども広く展示資料ととらえ紹介します。さらに、幅広い文学や芸術文化をテーマとした企画展を行うなど、区民をはじめとする人々に文学や幅広い芸術文化に触れる機会を提供します。

（４）教育・普及

人々と文学とをつなぐ架け橋となることを目指し、吉村文学をはじめ広く文学に対する理解と関心を深めるため、また、幅広い芸術文化に触れるため、講座や講演会をはじめとする様々な活動を展開します。

（５）情報提供

資料収集や調査研究などの事業活動の成果を活用し、吉村文学にかかわる情報拠点として、区民をはじめ国内外の研究者から一般の人々まで、幅広い利用者に吉村文学にかかわる情報を提供します。また、荒川区の芸術文化に関する情報を発信します。

（６）広報・利用者サービス

より多くの人々が訪れ、継続的に利用される文学館を目指し、積極的な広報活動を展開するとともに、利用者の目的に合わせて多彩な活動が展開できるよう、機能の拡充を図ります。また、利用者が館内の見学や周辺地域の回遊を行うために必要なサービスを提供します。

（７）活動参画

区民や区内の事業者、全国の吉村文学ファンなど幅広い人々と連携していきます。そのために、これらの方々が文学館の活動に参画できるしくみを整備します。